

日本の伝統文化を守る宮大工



生田社寺建築

所在地 たつの市揖西町土師591
代表者 生田 樹史
TEL 0791-66-1168

○会社概要は

神社や寺院の建築・修復のほか、一般住宅の建築・リフォームも行っていきます。父親が宮大工でしたので、私も太子町にある建設会社で七年ほど宮大工としての修行を積み、平成十四年に独立しました。事業エリアは西播磨地域中心ですが、県外の現場を手掛けることも多くあります。

○宮大工の仕事は

神社や寺院等、日本の伝統的な建物を建てたり、修復を行ないます。国宝や重要文化財の指定を受けている建物の修復では、当時の古木材を一定割合保存しなければならぬ基準があります。

加えて、釘を使用しない施工方法「ほぞ組み」等の木組み技術を駆使した建物は、後世に残すため

に必要な修復箇所を判断するだけでなく、木材の幅・厚みの他、保存状態でも補強工法が変わるので、建物全体の構造を把握できなければなりません。一般的な建築知識や伝統工法の知識に加えて、歴史、地質、芸術に至るまで専門的かつ幅広い知識が必要とされます。

○職人としてのこだわりは

私が一番重要視していることは、全体を見渡したときの「調和」です。設計図を基に建築していきませんが、敷地内にある他の建物と建築・修復する建物の大きさ、組み込む装飾等のバランスを見て、細かい変更をすることがあります。

例えば、破風（屋根の妻面にある三角形の外壁面部分）や大屋根の反り具合は、建物の重厚感や迫力に関わる部分です。最初に建築された時代の歴史的要素から見て、設計変更を提案することもあります。このような提案は、職人の経験と感性が問われるところです。イメージを膨らませるために設計図から一度板の上に下書きを行い、バランスを見てから墨付け工程に

移ります。

○これからは

日本の文化財を保存していくために、伝統的な工法・技術の指導をこれからの職人に伝えていきたいと思っています。

また、木造和風住宅は、木材が呼吸することで家屋の機能が長く保てる他、ハウスダスト等によるシックハウス症候群対策にもなるので、高温多湿気候の日本の風土に適しています。

これからも、素晴らしい日本文化を守り続けるとともに、快適な生活が過ごせる住宅建築を行なっていきます。



設計図から全体の調和を図るために板に下書きされる様子